



「潮鳴り遙か —五島・久賀島物語—」

内海 紀雄 著

●著者略歴

内海 紀雄 (うちうみ・のりお)

1940 (昭和 15) 年、東京に生まれる。3 歳から五島・久賀島 (現五島市) の田ノ浦で育ち、複式授業の田ノ浦小学校、久賀中学校卒。五島高校を経て大阪大学経済学部卒。1964 年に朝日新聞記者となり、大阪・社会部長、編集局長、東京・経営企画室長などを歴任。代表取締役・専務・大阪本社代表を 2006 年に退任。

日本高校野球連盟副会長、宝塚大学特任教授を経て、現在は公益財団法人美術館常務理事・館長、東大寺信徒総著書には「五島・久賀島年代記 (改定) (同書刊行会) 「一記者の戦中・戦後」 (北泉社)。

* A5 判 400p 本体 1,677 円 + 税

●目次

第一章 古代史の光

「肥前国松浦郡田浦」考—空海・最澄の渡唐解纜の港はどこか—

第二章 近世から幕末へ—島の歩みと暮らしの変遷—

- 1 打ち続く飢饉
- 2 藩制確立期の代官
- 3 島抜けと島守り—流人悲話—
- 4 外来者の入植で開墾進む
- 5 家数九二軒、人口四五六人—二四〇年前の久賀島—
- 6 一揆・騒動が続発
- 7 幕末前夜の久賀島—代官日記に見る—
- 8 続・幕末前夜の久賀島—代官日記に見る—
- 9 台場の跡と椿林を訪ねて
- 10 島の椿—その歴史をたどる—

第三章 学校、教会、権利への目覚め—明治の近代化—

- 1 離島の—小学校の足跡—開校から閉校まで—
- 2 旧五輪教会の建築棟梁・平山亀吉
- 3 田ノ浦湾のきびな (魚へんに「長」) 漁場をめぐる変遷
- 4 白秋と島の網元の邂逅

第四章 遥かな昭和

- 1 柳田国男を惹きつけた久賀島
- 2 一家を支える女たちの記録—瀬川清子さんの足跡—
- 3 二つの五〇回忌—被爆死の学徒と戦死した青年教師
- 4 一期一通—野呂邦暢さんとの出会い—
- 5 星の明かり—島の歌人藤原元の生涯—
- 6 求道ひとすじの先達—入江久光先生を偲ぶ—
- 7 中学生が見た島の未来

第五章 久賀島人物伝

山口長十郎／内海寅次郎／藤原元之助／山口幾太郎と篠平／田中善吉／藤原伝十郎／脇田浅五郎／平山源一郎／藤原九十郎／藤田辰之丞／男性教師編・多士済々の群像／女性教師・明治、大正期から進出

第六章 地名は土地に刻まれた古文書—久賀島の小字をたどる—

- 1 文献に残る五島の浦々の地名
- 2 古くは「大値嘉島」と呼ばれた?
- 3 明国の地図にも田ノ浦を掲載
- 4 「久賀島」以前に、「久賀」が登場
- 5 宣教師の記録にも島の地名
- 6 伊能忠敬が海岸を一周して測量

第七章 望郷の詩

- 1 ヨカイロの家
- 2 きびな (魚へんに「長」) 賛歌—分布と漁の歴史—
- 3 祖霊の坐ます島
- 4 司馬さんの「五島の浦々」を行く
- 5 宮本常一に読む五島列島
- 6 原風景の故郷

第八章 久賀島研究史—島内外の先人の業績をたどる—

あとがき

梓書院 (貴店番線)	注文	日付	ご担当	ISBN 978-4-87035-540-8 C0095
	冊		様	潮鳴り遙か —五島・久賀島物語—
				定価 1,800 円 (本体 1,677 円 + 税)
		内海紀雄 著		福岡市博多区千代 3-2-1 (tel)092-643-7075

【ご注文は FAX : 03-5309-2831 まで】